

7. 関連イベント

Event

【1】COC 事業関連イベント

1. 株式会社楽天野球団との連携推進事業・球団社長による特別講演会を開催

本学では、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を一層推進し、地域の再生・活性化の拠点となる大学を形成するため、株式会社楽天野球団社長による特別講演会「日本一愛される球団を目指して」を、平成27年5月7日(木)に弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールで開催した。

この特別講演会は、東北地方においてプロ野球球団を始め様々な事業を展開している株式会社楽天野球団と連携し、同野球団の地域(東北)を志向した事業の展開や、地方企業としてのノウハウを本学学生及び教職員に地域志向的意識を啓発する事を目的として開催された。

特別講演会には、佐藤学長をはじめ、役員を含む幹部職員及び学生など、合わせて約230名が聴講した。講演者の立花陽三社長からは、時折、質問形式や東北楽天ゴールデンイーグルスの現状についての話を交えながら、「東北ろっけん活動」、「TOHOKU SMILE PROJECT」及び、学生による学生のための動員企画「楽天イーグルスキャンパスアンバサダー」等の事業が紹介され、「ファン・地域にとって無くてはならない存在」=「日本一愛される球団」を目指す楽天野球団の目標について講演された。講演後、学生から活発な質問が飛び交い、特別講演会は盛況のうちに終了した。



2. 作家 高橋克彦氏講演会「北の炎(ほむら)」を開催

本学では、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されたことを受け、青森県の地域課題の克服や、「青森ブランド」の価値の創造に向けた様々な取組を進めており、その一環として、平成27年5月22日(金)に、作家の高橋克彦氏を招き、本学学生・教職員に青森県を含めた東北地域の歴史や文化をよりいっそう学んでもらうことを目的とした特別講演会を、弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールで開催した。

当日は、佐藤学長をはじめ、教職員や学生など合わせて約280名が出席し、会場は満員となり、講師の高橋克彦氏から、日本の古代神話についての話を交えながら、津軽地域の地名の由来や地域の人々が持つ「和」を大切にする心が、東日本大震災の際に万人平等の姿勢に現れ、外国から賞賛されたこと等について紹介された。特別講演会は、当初予定していた時間をオーバーして盛況のうちに終了し、講演後、学生や教職員から高橋克彦氏の講演を聴くことができ、大変貴重な機会を得ることができたとの声や可能であればもう一度講演会を開催してほしいとの要望が寄せられた。



3. I♡(ラブ)青森トークショーを開催

本学と青森県は、学生がライフプラン形成や地域資源を活用した生業づくりの実現といった生き方を考えるきっかけとなるよう、大学生等を対象にしたトークイベント「I♡(ラブ)青森トークショー」を平成27年6月27日(土)に、弘前大学総合教育棟4階401講義室で開催した。

本イベントは、青森県が平成27年度より実施している「20代を変える『生き方』ナビ事業」の一環で、「弘前で『働く・楽しむ・暮らす』」をテーマに、弘前市在住の若手・中堅経営者らが、弘前で働くことの楽しさや魅力、学生が青森県で働くことの価値やライフプランについて意見交換を行った。



4. 「弘前大学グリーンカレッジ」募集説明会を開催

本学では、平成27年7月10日(金)、平成27年度後期開講の「弘前大学グリーンカレッジ」の募集説明会を弘前大学附属図書館3階ラーニングコモンズで開催した。

グリーンカレッジは、地域の方々の「学び直し」のニーズにこたえるため、正規学生の開講科目の一部を開放し、学生との共学やサークル活動、大学行事への参加により、学生と一緒にキャンパスライフを経験してもらう取組である。

募集説明会には、70名もの参加者があり、当日は、佐藤学長のビデオ・メッセージ、伊藤教育担当理事の挨拶の後、グリーンカレッジ概要の紹介、応募に係る事務手続き等の具体的な説明、質問コーナーが続き、参加者からは科目数の上限や申込みの条件、面接の内容について、熱心な質問が相次いだ。



5. 弘前大学グリーンカレッジを開校

本学は平成27年度後期から「弘前大学グリーンカレッジ」を開校した。

グリーンカレッジは、地域の方々の「学び直し」のニーズにこたえるため、正規学生の開講科目の一部を開放し、学生との共学やサークル活動、大学行事への参加により、学生と一緒にキャンパスライフを経験する。

この度、第一期生21名を迎え、平成27年9月25日(金)、弘前大学附属図書館グループラーニングルームにおいて、「弘前大学グリーンカレッジ第一期生入校式」を挙行了した。

入校生らは、30代～70代までの幅広い年齢層で、地域で活動するシニアや女性、会社員、マスコミ関係者など、弘前市を中心に青森県内各地から集まった。なかには親子で弘前大学に在学することになった者もいた。

入校式では、入校生21名に対して、学長から入校許可が宣言された後、弘前大学への入校を歓迎するとともに、本学の学生や教職員と一体となって教育や学生活動に積極的な参画を期待する旨の告辞があった。

続いて、入校生代表から、グリーンカレッジの心得を守り、専門的な学修と自由闊達な学生生活を送ることが宣誓され、入校式は、厳かな中にも和やかな雰囲気の中に終了した。

なお、入校式終了後に入校生ガイダンスが行われ、関係する教職員より授業の受け方やキャンパス内での注意事項、施設利用等のカレッジ生活全般にわたり説明があった。入校生からは、授業前の準備やキャンパス内での態度などについて熱心な質問が相次ぎ、来るグリーンカレッジ生活に期待を寄せていた。



6. 若手社会人×弘大生～つながるトーク～を開催

平成27年11月19日(木)、本学学生を対象に、県内在住の若手社会人との交流会「若手社会人×弘大生～つながるトーク～」を、弘前市の21世紀型集会所indriyaにて開催した。

本企画は、本学の学生が様々な職種の若手社会人との交流を通し、学生の職業選択の幅を広げ、将来に対する不安や疑問の解消をはかることを目的に、COC推進室と学生就職支援センターとの連携で行われた。

当日は、本学の学生15名と県内在住の若手社会人7名が参加し、和やかな雰囲気のもと、「仕事と地域の関わり」や「青森県内での社会人生活について」などの話題で交流を深めた。

参加した学生は、青森県外出身者が半数以上を占め、「卒業したら社会人側として参加したい」という声もあり、県内就職への関心を高めるためにも、今後は定期的な開催を目指している。



7. 弘前大学COC・COC+全学説明会を開催

本学が平成26年度に採択を受けた、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」及び平成27年度に採択を受けた、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」について、教職員・学生を対象とした説明会を、平成28年1月25日(月)に本学総合教育棟1階101講義室において開催し、教職員・学生合わせて111名が参加した。

佐藤学長による挨拶の後、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室課長補佐の永田昭浩氏によるCOC・COC+の概要説明と、他大学の取組事例の紹介があった。

続いて、吉澤企画担当理事より本学のCOC・COC+事業についての説明、伊藤教育担当理事より本学の教育改革についての説明があった。参加者は各説明に熱心にメモをとるなど、COC・COC+の事業への関心の高さが伺えた。



8. COC+シンポジウムを開催

平成28年3月11日(金)、「COC+シンポジウム」を青森中央学院大学の学術交流会館で開催した。

このシンポジウムは、平成27年度に文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」の周知と認知度向上を目的に、「大学と地域が協創する青森の未来」をテーマとして開催され、教職員、学生、自治体関係者、企業関係者、県内在住者ら約200名が参加した。

青森COC+推進機構長の佐藤敬弘前大学長による挨拶の後、第一部では、文部科学省大臣官房審議官(高等教育局担当)の義本博司氏による基調講演「地方創生と大学」、青森県企画政策部企画調整課総括副参事の丸尾豊氏による報告「青森県における地方創生」、弘前大学4年の島中勝司さんと青森中央学院大学4年の千葉美輝さんによる「学生メッセージ」の発表が行われた。

続いて第二部では、「大学と地域が共に担う人財育成—学生たちとの地域[共育]を考える—」をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。パネリストを義本氏、丸尾氏のほか、曾我亨弘前大学副理事・人文学部教授、21世紀型集会所indriya代表の大西晶子氏が、コーディネーターを青森COC+推進機構の吉川源悟氏が務め、各パネリストから青森県の地方創生に貢献できる人財の育成や学生の県内定住への意見が発表された後、参加者との間で活発に意見が交わされた。

